

2024年度 決算補足資料

2025年5月16日



2024年度 決算のポイント

(単位：百万円)

	2023年度	2024年度			対前年 同期比	
	通期	上期	下期	通期		
			4Q			
売上高	158,254	78,195	84,734	43,342	162,929	+4,675
営業利益	2,291	△253	3,624	2,450	3,371	+1,080
経常利益	2,574	△536	3,580	1,940	3,044	+470
当期純利益	△7,699	△2,696	△196	△1,204	△2,892	+4,807

《全体感》

- 売上：円安影響等で売上高は増加したものの、販売量は一部主要顧客の販売不振等により前年同期比減(△1.5%)
- 営業利益：主に日本及び中国での人員適正化による固定費圧縮や価格是正活動の効果に加え、生産性改善効果もあり、下期で収益を大きく改善したことで通期でも増益
- 当期純利益：主に米国工場における減損損失の計上により損失を計上

24年度決算における営業外費用等の計上について

(単位：百万円)

	2024年度		
	上期	下期	通期
売上高	78,195	84,734	162,929
営業利益	△253	3,624	3,371
経常利益	△536	3,580	3,044
当期純利益	△2,696	△196	△2,892

為替差損（営業外費用）：約△3億円

外貨建て債権・債務の評価替えに伴う為替差損

固定資産売却益（特別利益）：約7億円

中国広州工場の一部(第2工場)売却益

特別退職金（特別損失）：約△10億円

中国、国内拠点の生産体制合理化に伴う計上

減損損失（特別損失）：約△33億円

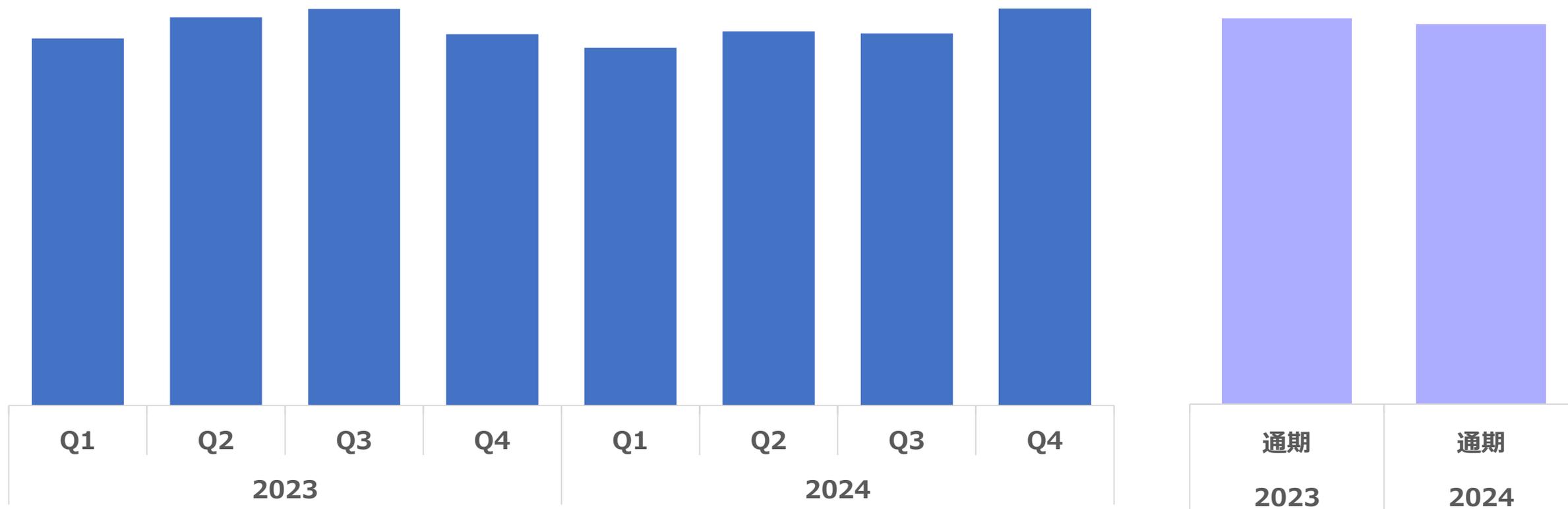
主に米国工場の収益性低下に伴う同社が保有する固定資産の回収可能性を踏まえ計上

繰延税金資産の取崩し（法人税等調整額）：約△11億円

メキシコ工場の会計上の機能通貨(米ドル)と税務基準額計算上の現地通貨(メキシコペソ)の違いにより、ドルに対しペソ安になると法人税等調整額がプラスとなり費用を計上

売上重量推移

24年度通期では、主に上期における一部主要顧客の販売不振等の影響もあり、23年度対比微減となるも、新規品の立ち上げ及び増産対応により4Qは販売量が増加



ダイカスト事業

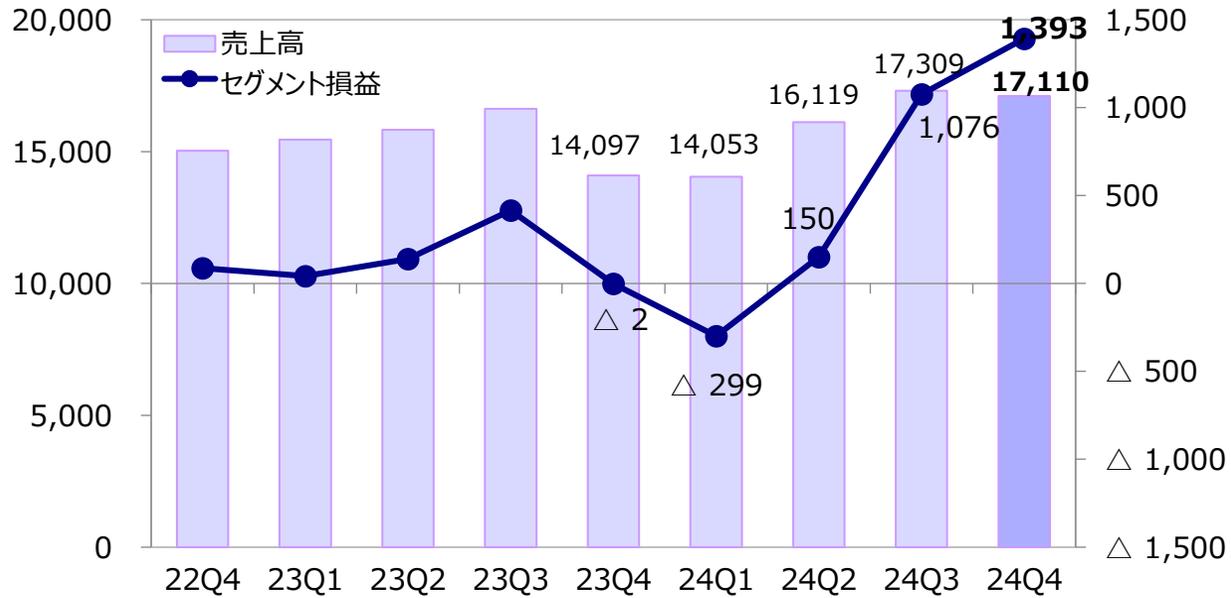
(単位：百万円)

		2023年度	2024年度			対前年 同期比	
		通期	上期	下期	通期		
				4Q			
日本	売上高	62,007	30,172	34,419	17,110	64,591	+2,584
	セグメント 損益	595	△149	2,469	1,393	2,320	+1,725
北米	売上高	47,967	25,389	24,315	11,931	49,704	+1,737
	セグメント 損益	1,242	△419	△1,198	△492	△1,617	△2,859
アジア	売上高	35,098	17,221	19,313	11,216	36,534	+1,436
	セグメント 損益	△650	256	1,554	1,277	1,810	+2,460

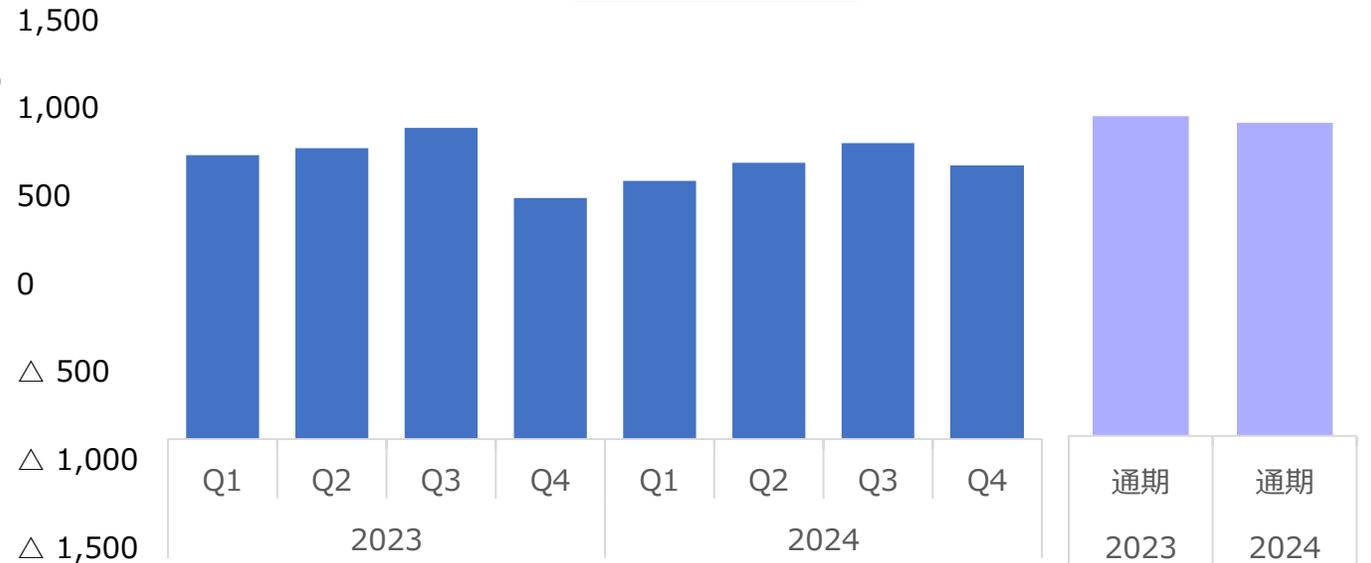
※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算となります。

ダイカスト日本

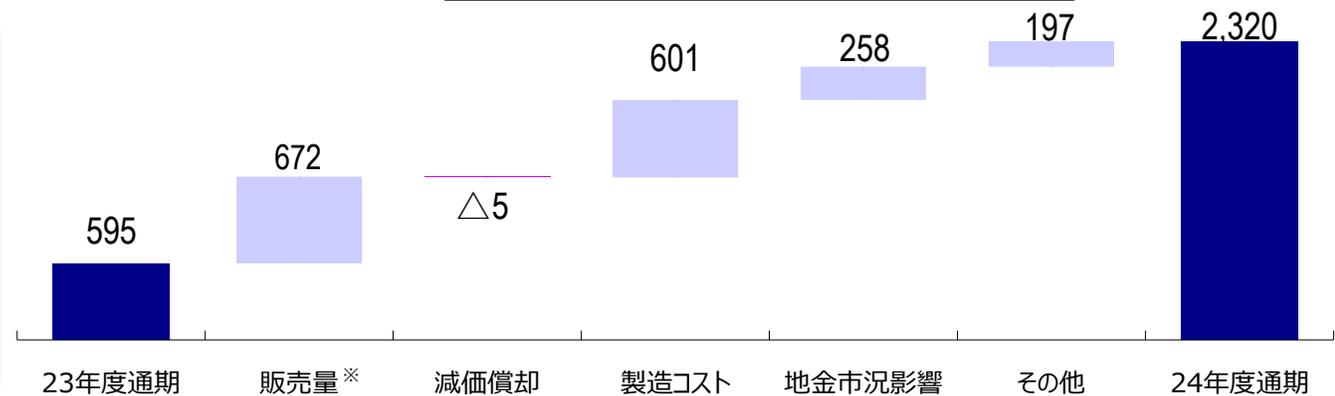
売上高／セグメント損益の推移 (単位:百万円)



売上重量の推移



セグメント損益増減要因 (単位:百万円)



《通期》

売上：645億円 前年同期比+25億円 (+4.2%)

損益：23億円 前年同期比+17億円 (+289.5%)

〈第4四半期〉

売上：171億円 前年同四半期比+30億円 (+21.4%)

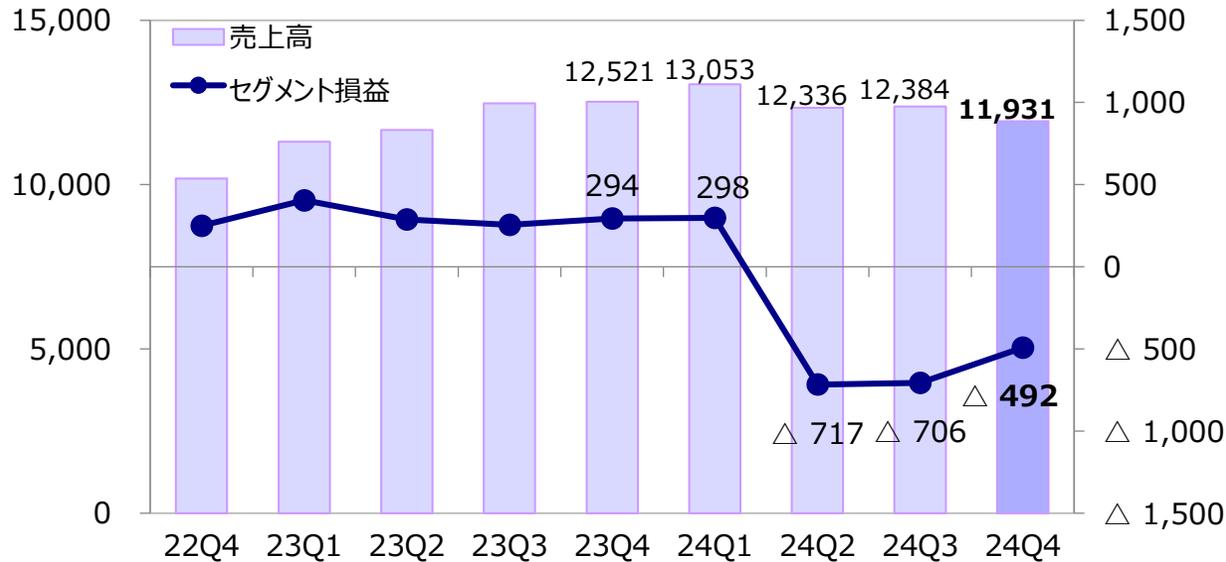
損益：13億円 前年同四半期比+13億円 (黒字化)

- 受注量は前年比減少するものの、人員規模適正化等による製造コスト低減や価格是正活動の効果もあり、下期で収益を大きく改善し年度累計でも増収増益

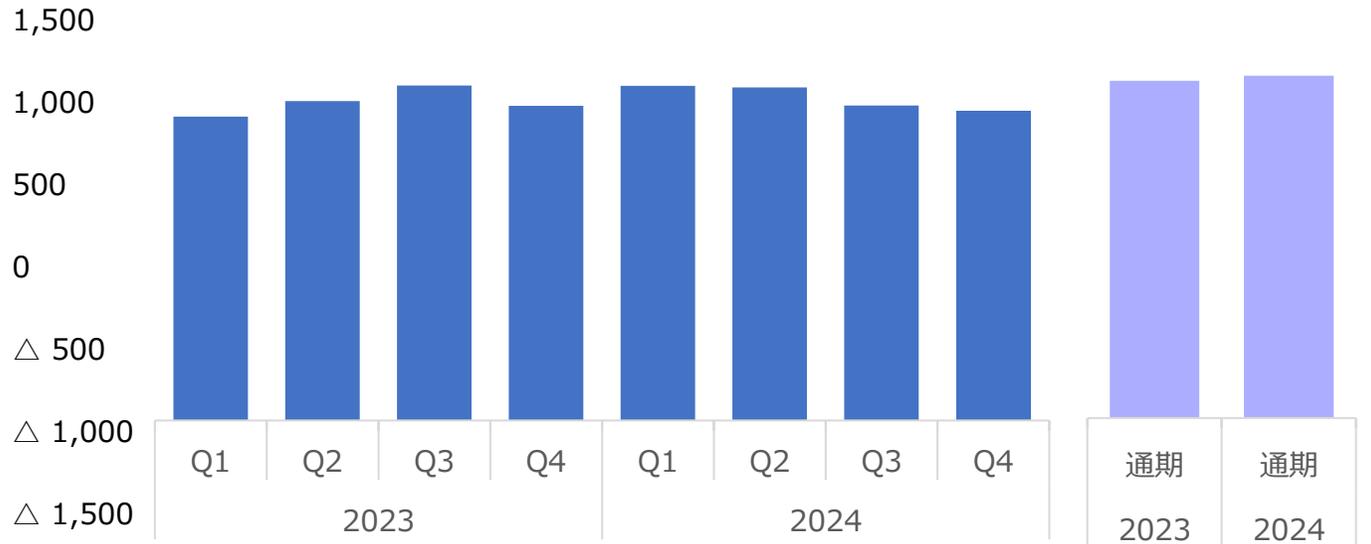
*価格 is 正分含む

ダイカスト北米

売上高／セグメント損益の推移 (単位:百万円)



売上重量の推移



《通期》

売上：497億円 前年同期比+17億円 (+3.6%)

損益：△16億円 前年同期比△28億円 (赤字)

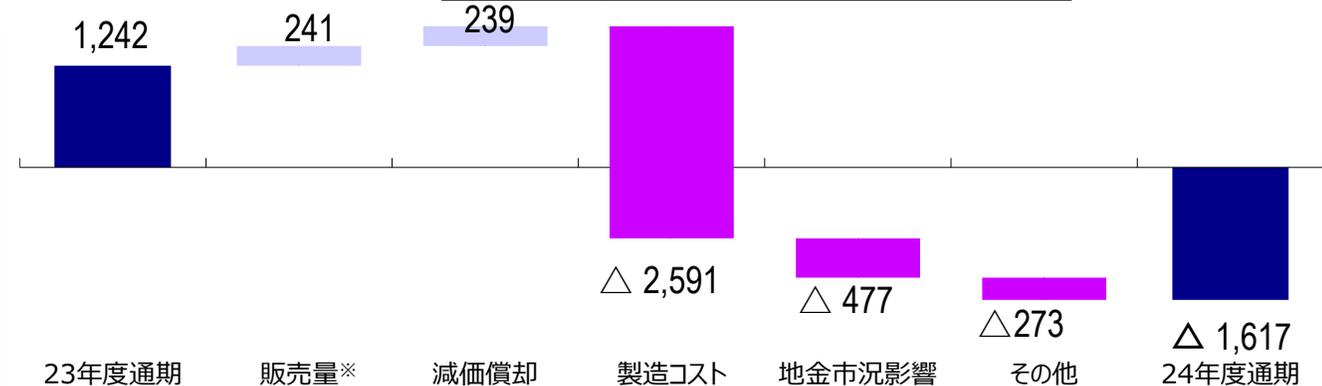
〈第4四半期〉

売上：119億円 前年同四半期比△5.9億円 (△4.7%)

損益：△4.9億円 前年同四半期比△7.8億円 (赤字)

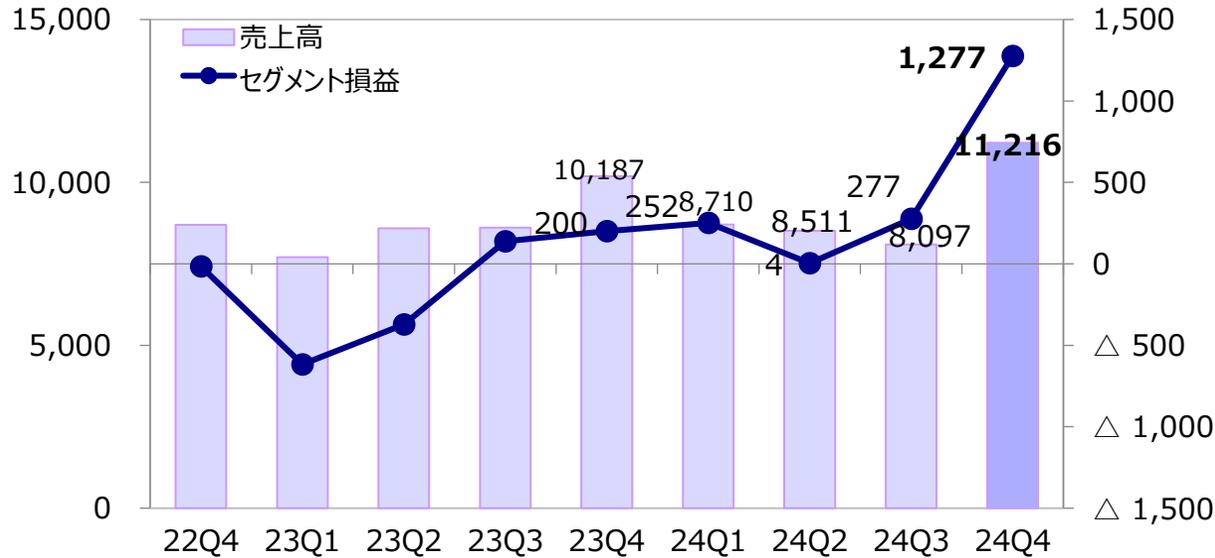
- メキシコ工場は引き続き堅調な利益を確保。米国工場は4Qにかけて損失額は縮小しているものの、引き続き製造コスト増影響が続いており、早期の黒字化に向け再建計画を推進中

セグメント損益増減要因 (単位:百万円)

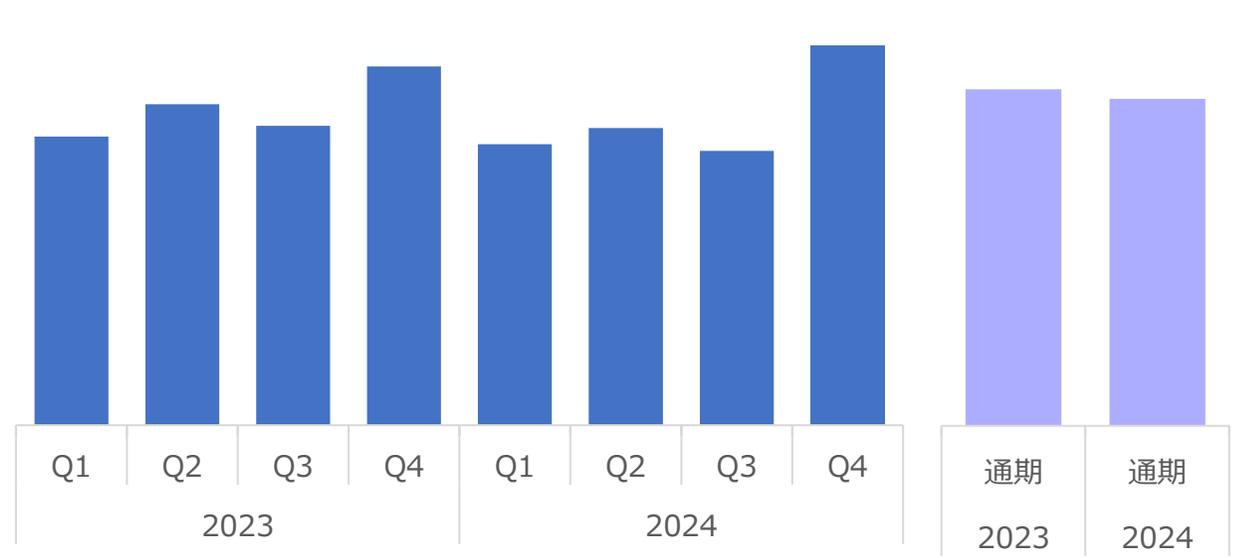


ダイカストアジア

売上高／セグメント損益の推移 (単位:百万円)



売上重量の推移



《通期》

売上：365億円 前年同期比+14億円 (+4.1%)

損益：18億円 前年同期比+24億円 (黒字化)

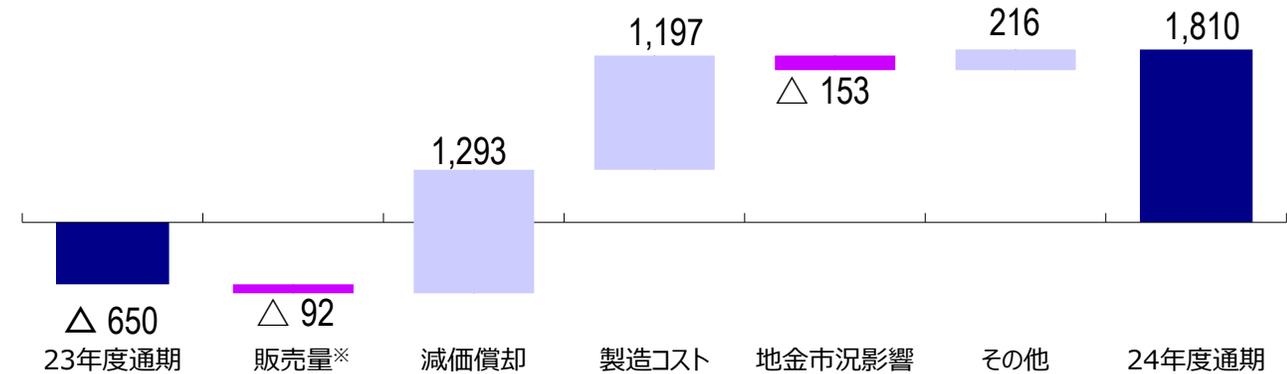
〈第4四半期〉

売上：112億円 前年同四半期比+10億円 (+10.1%)

損益：12億円 前年同四半期比+10億円 (+538.5%)

- 中国工場において中資系顧客向け製品の量産開始により4Qで受注量が増加。人員適正化等による固定費削減や、前年度の減損計上による減価償却費圧縮もあり利益拡大。インド工場においても生産性改善効果により下期で黒字転換

セグメント損益増減要因 (単位:百万円)



※価格は正分含む

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2023年度	2024年度				対前年 同期比
		通期	上期	下期	4Q	通期	
アルミニウム 事業	売上高	7,057	3,466	3,746	1,886	7,212	+155
	セグメント 損益	141	70	156	64	226	+85
完成品 事業	売上高	6,123	1,945	2,941	1,200	4,886	△1,237
	セグメント 損益	891	179	617	228	796	△95

<アルミニウム事業>

- 売上：販売重量は通期で減少（△9.8%）したものの、販売単価の上昇や下期以降の販売重量の回復もあり増収
- 損益：売上高の増加等により増益。計画を超える水準で利益を確保

<完成品事業>

- 売上：前年同期比では半導体関連企業の期中の大型物件の引き渡しが増加したことにより増収となるも、計画を超える水準で着地
- 損益：前年同様に高い利益を確保。利益率としては過去最高を記録

2025年度 通期計画

(単位：百万円)

	2024年度	2025年度(計画)				対前年同期比
	通期	上期	下期	通期		
売上高	162,929	82,100	79,100	161,200	-	△1,730
営業利益	3,371	1,900	1,700	3,600	2.2%	+228
経常利益	3,044	1,600	1,500	3,100	1.9%	+55
当期純利益	△2,892	1,800	500	2,300	1.4%	+5,192

- ・ 関税影響等による先行きの不透明さがある中、当社として保守的に販売計画を立案した結果、受注量は前年比横ばいを見込む
- ・ アジアセグメントは中国での中資系顧客の取引拡大、インドでの第二工場稼働による増産対応等もあり受注量は増加
- ・ 米国工場の収益改善を早急に取り組んだうえで、25年度で黒字化を目指す
- ・ 引き続きエネルギー費及び労務費の価格転嫁交渉の推進によりコスト増加影響を吸収していく

計画の前提レート： USD 150.00円 人民元 21.0円 ルピー 1.80円

株主還元

1株当たり 配当金	22年度 実績	23年度 実績	24年度 実績	25年度 5/16予想
年間配当	10	15	28	32
中間	5	10	10	16
期末	5	5	18	16
1株当たり純利益	△3.26	△300.55	△116.26	91.10
配当性向	—	—	—	35.1%

〈配当方針の変更〉

変更前	変更後
連結業績に基づいた配当性向35%以上の配当実施	連結業績に基づいた配当性向35%以上に加え、 配当下限額として株主資本配当率（DOE）1.5%の配当実施

- 当社は財務戦略に基づき連結配当性向35%以上の配当を実施することが基本方針
- 一方で株主還元を重視しており、業績不振時でも配当を継続
- 安定的な配当を行う姿勢を更に明確にするため、従来の方針は堅持しつつ、25年度よりDOEを新たな指標として追加



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。